

個の能力を伸ばし、自立して社会の形成者となるための資質を養う教育の推進

月中だより

令和5年6月30日

第3号

月形町立月形中学校

発行者: 渡邊 直樹

当たり前前の日常のありがたさを感じています

暑さが本格的になり寝苦しさを感じる日々が来つつあります。新型コロナウイルスの5類への移行により、ほとんど制約のない学校生活が再開され早くも2か月が経とうとしています。マスク着用の生徒はまだ多いものの、各授業ではこれまで制限のあった「生徒が対面形式となるグループワーク」や「一斉に大きな声で話す活動」などがコロナ禍以前のように行われ、これまで以上に生徒達の生き生きと活動する姿が見られるようになりました。

校外での活動に目を向けると、宿泊研修（2年生）や中体連大会などがほとんど制約なく行われ、3年間実施を見送ってきた職場訪問としての福祉施設（「藤の園」「雪の聖母園」）訪問も再開することができました。さらにはPTA行事（球技大会）も通常どおり実施することができました。

これらの取組を再開する際には弱冠の戸惑いもありましたが、このことにより教育活動が一層充実しているのは間違いなく、当たり前前の日常のありがたさを改めて感じているところです。生徒達が伸び伸び生活できるこの状況が長く続くことを祈るばかりです。

各種体験学習がありました

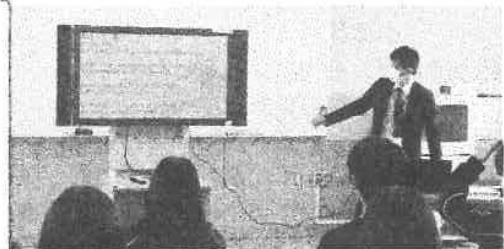


3年総合 『地域の福祉』 (6/9 講演会)

職場体験の事前学習として『高齢者に対する理解と支援について』をテーマに月形藤の園の保坂豊知様に、『障がい者の理解と支援について』をテーマに雪の聖母園の高島康典様にご講演していただきました。

(6/26 職場体験)

藤の園では実際に高齢者の方々との触れ合いを通じた体験、雪の聖母園では施設を利用されている方々の制作物を拝見することができました。



2年宿泊学習 (6/21~22) 1日目午前は防災センターで災害体験、JICA (ジャイカ) で国際海外協力隊の方の講義を聞き、異文化の学習をしました。(右下はそれぞれが思い思いの民族衣装を選び着用した写真です)

午後は上級学校訪問で各種専門学校等を訪問しました。2日目はグループ自主研修でした。両日とも晴天に恵まれ、充実した学習を進めることができました。

